

「みんなのお水」

秦野市立東中学校

二年 フジタ 美怜 楽 さくら子

飲み水やお風呂など私たちが毎日つかっている「水」私たちがあたりまえのように使っている水ですが、私たちがつかう「水」はどこから生まれてくるのでしょうか。

「水」は、雨や雪として「大地」にふり山の一番高いところを境として低いところへ流れ川となってどんどんあつまっていきます。この水があつまるとは「流域」といいます。私たちはこうしてあつまった水を「日常」でつかいそして、つかった水はまた流れどんどん下って海に流れこみ、太陽に熱され水蒸気となって雲になり、その水はまた、雨や雪として大地にふり注ぎ地中にしみこんだり、川となって流れたりしながらぐるぐる回ります。かえして、また私たちがつかう「水」となるのです。これを「水循環」といい、水はつねに形をかえてめぐ

っているのです。

日本の雨や雪のふる量は世界平均と比べて約1.6倍、とても水の量が多い国だと思われがちなのですが、日本の国土はせまく川は短く急で、すぐに海に流れでてしまします。そのうえ人口が多いため、一人がつかえる水の量は世界平均と比べて「二分の一」程度。そのため日本では、水のめぐみに感謝し、水を上手につかう工夫をして水と付き合ってきました。

例えば、ダムは川の上流で水をため、雨が少ない時期に流すことによって私たちがいつでも水がつかえるようにしています。田んぼはイネをそだてるために水をためますが、実は、地下に水をしみこませたり、森林と同じようにすぐに流れ出てしまう水を大地にとどめたりする効果があります。また、水道や下水は、私たちが安全で安心な水をつかえ、つかった水をキレイにして川や海へもどすことで、「水循環」をくずさない工夫をしているのです。

このように水と人は手を取り合って上手にバランスを取ってきました。しかし「水循環」が崩れると様々なトラブルがおこってしまうのです。では、そのトラブルと

はどんなことでしょうか、例えば田畑がビルや家、道路などになると、地面にしみこむ水がへって大雨の時にあふれたり、水の流れが変わってしまったり・・・気候変動による天気の変化で気温や雨のふり方が変わってしまったり・・・

水を使うためのダムや水道などがふるくなり、直す施設が増えてきて、さらに人口がへってしまくと、支えきれなくなってしまうのです。

そんな風に、私たちと水のかかり方がかわって「水循環」のバランスがくずれてしまくとどうなるのでしょうか。

「水」は、地球上の限りある資源であり、生物の命を育み、私たちの生活や産業に不可欠な「基本要素」です。また大気から大地、川等を経て海域に向かう水の循環は川、地下水の水量の確保、水質の浄化、水辺環境や生態系の保全に大きな役割を果たしてくれます。

水は私たちの生活に欠かせないものです。これからもキレイでゆたかな水をつかい続けるため、あなたが「水循環」についてできることを考えてみましょう。